

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000259		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム里の家 (はまなす)		
所在地	北海道小樽市桂岡11-13		
自己評価作成日	平成26年12月1日	評価結果市町村受理日	平成27年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし、信じ合える希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるよう配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染のある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事、地域交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた昔の自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、入居者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000259-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 1 月 19 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、地域生活の継続を支援するための事業所独自の理念を作り上げ、毎朝の申し送り時に全職員で唱和し、共有しており、さらに念頭に入れて日々の実践ケアに取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームで里の家祭りを開催したり、地域の運動会に参加し、小学校の行事等に招待され入居者と一緒に参加している。また、各種の慰問もあり、日常的に地域での買い物もし、散歩で近隣の方々と挨拶も交わす等関係は良好である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時、地域の方々からの認知症の相談や見学も受け入れて、町内会と連携し認知症サポーター講習も行っている。また、人材育成の貢献として実習生の受け入れも行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進委員会を開催し、地域包括支援センター、消防署、町内会長、民生委員、家族の代表の方々の出席を得て、評価への取り組み・状況報告や検討事項、懸案事項について経過報告を行ない、また、活発な意見交換がなされている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当窓口には、折に触れ訪問している他、市役所の職員の方にも運営推進委員会に参加していただく等連携がとれている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを配布し、研修にて職員の共有確認を図っている。また、日々のケアの中で不適切なケアは無いかな職員同士が確認し、気がついた事はユニット会議等で話し合いながらケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて高齢者虐待防止に関する事を学び、全職員が理解浸透や遵守に向けた取り組みを行い、また、スタッフ同士がお互いに注意し合える関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護や成年後見制度について、資料を見ていただく等しているがまだ良く理解していない職員もいる。現在までは該当する入居者はおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に事業所のケアに関する考え方や取り組み、利用料金や起こり得るリスク・医療連携体制・退居を含めた事業所の対応可能な範囲等、十分な時間をとって説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の言葉や態度から思いを察する努力をし、意見を反映させる様に心掛け、苦情受付窓口を設置している。また、里の家だよりを毎月発行・送付し、ご家族の面会時にも報告し、お話しも伺っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者参加の毎月のユニット会議や全ホームでの合同会議にて、意見や要望について話し合い出来る機会がある。また、運営者参加の茶話会にて意見や要望について話す機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望もあり、日中は入居者3名に対して1名、夜間は各ユニット1名で柔軟な対応に向けた勤務体制である。また、運営者参加のユニット会議や茶話会にて意見や要望について話す機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修を継続的に行なっており、毎月資料を配布し事例研究や研究テーマについて話し合っており、毎月レポートも提出して貰う等職員一人一人が学習意欲を持ち学ぶ事に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内外での連絡会の研修に参加したり、地域の同業者との交流会に参加し情報交換を図っている。また、実習生の受け入れにて交流を持つことにより、サービスの質の向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた場合、ご本人やご家族に見学して頂く事から始め、管理者と計画作成担当者が自宅等に向き事前面談をし、生活状況を把握する様に努め、本人の求めている事や不安を理解する様にし、生活の場の移行がスムーズに行えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や今迄のサービスの利用状況等、これまでの経緯について聞き、ご家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時にご本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援を提案し、場合によっては包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげる等の対応を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の尊厳が守られ、馴染みの関係作りをし落ち着いた生活が出来る様雰囲気作りをする事で喜怒哀楽を共にし、入居者の得意とする事、好きな事と一緒にこなったり、教えて頂く等の場面作りをし、話しをする機会も多く持つ様にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時等にご本人の日々の暮らしや出来事等、状況を伝え情報の共有に努め、ご本人と一緒に支えるために、ご家族と同じ様な思いで支援している事を伝えている。また年に数回、家族参加の行事の機会を設けることでご家族様との良い関係作りも出来ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔住んでいた家を見に行き、近所の方と話す機会を作ったり、友人が遊びに来られたりしており、一人一人の生活習慣を尊重している。また普段の会話の中でご本人の昔話し等している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報を連携し、全ての職員が共有しており個別に話しを聞いたり、皆様で楽しく過せる場面作りをする等、利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となって支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で契約が終了しても、受診の際に入居者と一緒にお見舞いに行ったり、また退院後再度入居される等、継続的な付き合いが出来る様に心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人様やご家族様から情報を得る様にしており、また日々の関わりの中での声掛け、日々の行動や表情から汲み取り把握に努め、事毎に情報を共有しケアしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に自宅を訪問したり、入居者様のみならず入居後もご本人・ご家族様・関係者などから情報を得る様にしている。入居後も日々の会話で昔話しをし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの暮らしの把握をした上で、観察・見守りの中から、一日の生活のリズムのや身体状況等の把握に努め、情報を共有し話し合いケアをしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映させる様にしており、また、職員全員で意見交換やモニタリング・カンファレンスを行い、更新前にはご家族に現状報告・確認し状況の変化に応じた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、食事・水分量・身体状況及び日々の暮らしの様子や言葉、職員の気づきを記載し、職員間で情報共有を徹底している。また、個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして利用者にとって負担とならない様、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて町会町や民生委員の方々とお話しをし、また避難訓練等に参加していただき消防署にも協力を頂いている。地域の行事等にも参加し、舞踊・ハーモニカ・フラダンス等の慰問もあり楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用者のかかりつけ医で医療を受けたり、ご家族様にその都度詳細連絡し、更なる理解を得て、協力し通院介助を行ったりしている。また、歯科は訪問診療に来ていただいております。また、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者を良く知る主治医、看護師に相談し、主治医の指示を仰ぎ、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行なえる様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人様への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、入院によるダメージを極力防ぐ為に医師と話しをする機会を持ち、事業所内での対応可能な段階で、なるべく早く退院できる様対応している。また、退院後の通院にも対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の意向を踏まえ、医師・職員・ご家族様と連携を取り、利用者及びご家族が安心して終末期を過ごせる様取り組んでいる。急変した場合は、すぐに対応して頂ける様医療機関とも連携を図り対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施し全ての職員が対応出来る様にし、餅等を食べる時は吸引ノズルを準備している。また、緊急時対応について各マニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方等の訓練を定期的に行なっている。地震時の対応についても同様である。また地域の方々の協力体制も整っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット会議や打ち合わせの折に、お互いに注意し合える環境作りをしている。利用者からの言葉はまず受容し、その人に合ったの誇りやプライバシーを損ねない声掛け、対応の徹底を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者に合わせた声掛けをし、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり、紙に書いて見て頂いたりしご本人様が決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人一人の体調やその日その時のご本人様の気持ちを尊重し、食事の時間や買い物・散歩等、出来るだけ個別性のある柔軟な支援を行ない、「ちょっと待って」等の返事は極力使わないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝身だしなみの支援を実施しており、職員側の価値観や一方的な支援ではなく、個々の生活習慣に合わせた支援をし、理容・美容についても、毎月馴染みの理美容院で希望に合わせたカットや毛染め等をしてもらえる様連携をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな物は事前に把握し、メニューは利用者と相談し決めたり、個々の誕生日には好みの食事を提供し、またバイキング形式の食事も取り入れ、外食時は好きな料理を注文して頂いている。一緒に食事を作ったり食器拭きも手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好物を理解しており、ご本人様の様子やタイミング、時間を見ながら個々の対応もし、不足分はおやつ等も利用し楽しんで摂取出来るよう様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の力に応じた歯磨きの手伝いをし、バイタルサイン・入浴時・日常生活を通して観察し、毎食後及びモーニングケア・ナイトケア時に働きかけや支援を行なっている。また、口腔内に問題があった場合は歯科医の訪問診療も受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄のパターンや時間・習慣を把握し、尿意のない利用者にも時間を見計らってトイレ誘導する等の事で、自力排泄に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをし、食事・水分等に配慮し体操等運動を促す等、個々に働きかけをしている。また主治医とも連携をとり薬の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は目安として決まっているが、その日の体調に合わせた支援をし、その他の曜日でも入浴して頂く等、ゆっくり入浴して頂いている。また、リラックスしてもらえよう入浴剤も使用している。	0	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や生活リズムを把握し、ゆっくりと休息が取れる様に支援し、また夕方から穏やかに過ぎて頂く様に取組み、就寝に向けてリズムが安定する様に工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方箋を一人一人毎に整理し、職員が内容を把握出来る様にし、変更があった場合も情報を共有している。また誤薬しない様に服薬時には顔・薬の氏名・日時を複数人で声を出し確認し服用して頂き、服用できたか最後まで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備や洗濯物たたみ等、出来そうな仕事をお願いし感謝の言葉を伝える様にして頂いている。また、日常的に懐かしい曲のビデオ鑑賞をし、慰問や地域の行事、ホームの行事、外出、買い物等相談しながら参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気やご本人様の気分や希望に応じて、日常的に散歩・ドライブやお弁当を持って出掛けたり外食をし、季節を肌で感じて頂ける様支援を行なっている。また、個人的に以前住んでいた家を見に行ったり買い物や外食をする等個別対応も行なっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て少額のお金を持って方もいる。また、ご家族よりお金を預かり事業所が管理している方で、お金に関する訴え時は、担当者より通帳をお見せしたりお金を差し上げたりする等支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話等出来る様支援している。また、年賀状を出す支援も行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先にプランターやベンチを置いたり、リビングに日常的に花や季節の物を飾っている。また季節の行事毎の飾り付けをし、旬の食材を使い、季節に合った食事提供する等、五感や季節感を意識的に取り入れる工夫を行なっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや小さなテーブルを置き、一人で過ごしたり仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様と相談しながら使い慣れたベッド・家具等の生活用品、写真・装飾品等が持ち込まれており、その他、利用者のADLに合わせてポータブルトイレ等も設置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりやベッド等、居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立へ向けた工夫と考慮をしその都度話し合い、場合により本部と話し合い検討し備えてもらっている。		